




緑の園 1月号
ヒルトップハイツ
グリーンプラザ
デイサービスセンター
だより



第43号
 令和 2年1月1日発行

Monsters Of Rock/Rainbow(1980)

あけましておめでとう ございます。



あけましておめでとうございます。

新しい時代「令和」になって初めてのお正月を皆様におかれましてはお健やかに迎えのこことお慶び申し上げます。



おかげさまで持ちまして社会福祉法人丸瀬布社会福祉協会の事業所すべてにおいて昨年一年大過なく過ごすことができましたことを心から感謝いたしますとともにお礼申し上げます。

さて、未来からやってきた「ドラえもん」は2112年の9月3日生まれ(製造年月日)で22世紀の猫型ロボットですが、今年は21世紀の2020年、ドラえもんの誕生まで100年をすでに切っています。

その100年後の日本の人口は4286万人と現在の約3分の1までに減り、そのうち半分は65歳以上の高齢者との予測があるそうです。

日本の人口については、鎌倉時代に約800万人、江戸時代には約3000万人と増え続けてきましたが、平成20年



(2008年にピークの1億2808万人から徐々に減りつつあります。

人口が減るということは日本の歴史上初めての展開となるということです。

話をロボットに戻します…。

「ドラえもん」の他にも有名なロボットとして「鉄腕アトム」を皆さんはご存知かと思ひます。ここで問題です。手塚治虫氏の原作「鉄腕アトム」の誕生日はいつかご存知でしょうか?…。

答えは、2003年(平成14年)の4月3日です。

「鉄腕アトム」に関しては誕生してから今年で17年もたっています。

ちなみに、ホンダが開発した「アシモ」は2000年(平成12年)にお披露目されましたが、ホンダ創業者の本田宗一郎氏が「お前は鉄腕アトムを作れ」と社員の方に指示をしたことから開発が始まったそうです。

人が減ってきたのでロボットに任せようという考えが定着して、さらには現実的にロボットが身近な存在となりつつある状況ですが、私たちの所属している「介護の業界」は経済学でいうところ



の「労働集約型産業」に分類されます。

この言葉の意味するところは「人間の手による仕事量が多く、人の力がサービスの質に大きく影響を与えるまさしく人材の向上が課題となる産業」です。

こういわれるとテクノロジーとは全くかけ離れた介護の現場を想像するかと思われそうですが実はそうでもなく、パートナーとしてのロボットは介護の現場にも少しずつではありますが浸透し始めています。

そのひとつに「癒し」を提供するセラピー型のロボットがあります。

アメリカでは医療機器として承認されておりセラピードック等によるアニマルセラピーと同じ効果があるといわれています。



日本においては「Lovot(ラブット)」という「家族型ロボット」が瞳のある目で視線を合わせる、抱っこすると温かくて触り心地が良い、かわいがってくれた人を覚えてなつく等「(人が)かわいらしく感じる」ことに最先端の技術が使われているAiロボットで日本およびデンマークの老人ホームで現在、実証利用されているということです。

「鉄腕アトム」は設定上もう存在していますが、猫型ロボットの「ドラえもん」まではもうしばらく時間かかるものの「家族型ロボット」は存在しています。

「鉄腕アトム」も「ドラえもん」も人格(?)というか感情を持ったロボットです。

「感情」だったり特定の「動作」



に関しては現在のロボット技術はかなり進歩しています。

今後は、それらが集約された「ターミネーター」みたいなロボットが出現してくるのでしょうか。

人が減るのは容易に予測することができる未来において「感情?を持ち合わせた人間的なロボット」に対するニーズは大きくなるのではないかと個人的には希望も含めて大きくあります。

そんな夢をみながら今年もどうぞよろしく願います。

養護老人ホーム 緑の園

地域密着型特別養護老人ホーム グリーンプラザ

施設長 小原 穰



「杜のサロン」が開催されます。



今月の19日(日)に北海道新聞遠軽支局長の梁井 朗 様をお招きして「新聞はこうして作られる」を演題といたしまして普段何気なくお世話になっている私たちの知らない部分の新聞のお話を伺う予定となっております。



時間は午前10時から正午までの予定です。お気軽に足をお運びいただきたく存じます。

「杜のサロン」に関しましては皆様方のご協力により3年目を迎えることができました。

今後ともどうぞ可愛がってください。なにとぞ宜しくお願いいたします。

でわ。今年もどうぞよろしくです。(おばら)